

# 地域再生計画

## 1 地域再生計画の名称

藤子・F・不二雄先生のふるさとづくり～若者が夢を持ち住みつづけたいまちの魅力向上プロジェクト～

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

高岡市

## 3 地域再生計画の区域

高岡市の全域

## 4 地域再生計画の目標

### 4-1 地域の現状

本市は開町以来長きにわたり、銅器、漆器等の伝統産業とアルミ・化学・パルプなどの近代産業が相まった日本海沿岸を代表する工業都市・ものづくりのまちとして発展してきた。

古くは、交流・交易、ものづくりの拠点として栄え、それらの歴史に根ざした多種多様な文化を継承しながら発展させてきた土壌がある。

人口については 1988 年の 188,782 人をピークに減少傾向にある。年齢3区分別人口では、年少人口及び生産年齢人口が減少している一方、高齢者人口が増加しており少子高齢化が進んでいる。人口は 2060 年には約 108,000 人まで減少し、高齢化率も 43%まで上昇する見込みである。

自然動態は、出生数が横ばいから減少、死亡数が微増であることから自然減となっている。社会動態は、高校卒業時に大きく転出超過となり、大学等卒業期に転入超過となるものの、全体的には転出超過の傾向にある。

移動先については、転入・転出とも県内では富山市、射水市、県外では石川県、東京都、愛知県が多い。

この様な現状の中で、高岡市の高い文化力を活かして、市民の心を豊かにし、都市にクリエイティブな人材を呼び込み、市民の交流を促進することで、地域の発展に繋がる好循環を生み出そうと取り組んでいる。

まちがにぎわい、本市の魅力が向上し、他地域からも「行ってみたいまち、住んでみたいまち」高岡として認知されるまちとなることを目指している。

### 4-2 地域の課題

富山県では、子どもたちの進路について「子育て支援サービスに関する調査」

を平成 25 年に実施している。その結果、高校生の進学希望者のうち 3 分の 1 は三大都市圏への進学を、そのうち半数弱が三大都市圏での就職を希望している。

このことは、本市にも影響があるものと考えられる。前項「地域の現状」で人口推移について述べているが、20 代後半から 30 代の女性や子育て世帯についても転出が進んでおり、それに伴う子どもの転出も進んでいる。このことは、将来的に子どもを産む可能性がある女性の更なる減少を引き起こし、引いては出生数の減少に繋がる恐れがある。

この状況が続けば、若年層の流出による地域の活力や魅力の減退を招き、それがまた若年層の流出にも繋がるという悪循環が加速する。

経済や雇用の面で中核的な役割を果たす本市がこの様な状況にあることは、富山県西部地域全体の地域経済の縮小に繋がる恐れがある。

本市や県西部地域全体の活力の向上及び若者の定住や U I J ターンの推進を目的に、子どもや若者がふるさと高岡に対し自ずと誇りと愛着を持つような取り組みが必要となる。

#### 4-3 事業の目的

本市は、日本を代表するまんが家藤子・F・不二雄こと藤本弘氏（以下「F 先生」という。）の出身地である。F 先生は、まんがを描くことが何より好きで、手描きのまんが本をこつこつと作り続け、16 歳ごろから雑誌などに投稿を始め、まんが家という夢に向かって歩みだした。そして、17 歳の時に安孫子素雄氏との合作『天使の玉ちゃん』（毎日小学生新聞掲載）でまんが家デビューし、20 歳で上京するまでの間、本市で創作活動を行っていた。上京後は数々の作品を世に送り出し活躍したことは周知の通りであり、代表作品「ドラえもん」は、世代・時代・文化・国境を越えた普遍性を有し、15 の国と地域で翻訳され、今もなお、世界中の子どもたちだけでなく大人たちにも読み続けられている。

F 先生の作品は、日常生活と未来、宇宙、太古といったスケールの大きな世界が交錯する中に、「夢」「希望」「友情」「勇気」「大いなる好奇心」そして「人を愛する優しい気持ち」などのメッセージが込められている。また、作品中の風景や登場人物には、F 先生が幼少・少年期を過ごした高岡や出会った人たちがモチーフとして活かされている。

このような F 先生の世界観と作品の原風景を、まちを挙げて発信することができるのは、F 先生のふるさと高岡ならではである。この取り組みを進めることにより、交流人口の拡大につなげるとともに、F 先生の作品のキャラクターに日常的に親しむ環境を作ること、高岡に育つ子どもたちに対し、この高岡から F 先生のような世界で愛されている作品を生み出す人物が輩出されたこと、このまちでの何気ない日常が大きな世界とつながっていることを伝え、ふるさと高岡への誇りと愛着の醸成を図る。

#### 4-4 取り組み

「藤子・F・不二雄先生のふるさとづくり」をテーマとして、以下の柱に沿ってF先生の世界観と作品の原風景、F先生の足跡などの発信に取り組む。

なお、取り組みにあたっては、統一的なデザインコンセプトに基づき、F先生の世界観や作品の楽しさなどを十分に伝えられるものとすることに留意する。

##### (1) 個性ある拠点づくりとその有機的連携

本市においては、F先生のふるさと高岡の拠点施設として、平成27年12月に藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーを開設した。このギャラリーとこれまでに市内数カ所に整備してきたモニュメントやF先生ゆかりのスポット等をソフト・ハード両面から有機的につなぐことにより、点ではなく線、そして面としてF先生のふるさと高岡づくりを進めていく。

##### (2) 子どもや若者が日常的にF先生の描いたキャラクターに親しめる場の創出

市内の公園など子育て世代を中心とする市民が日常的に訪れる場において、F先生の作品のキャラクターに親しみながら、安全・安心に過ごせる場を整備する。

##### (3) 子どもの創造力の向上

総合公園でもF先生のまんがの世界観を体感できるように、子育て世代が安心して過ごせる場を整備する。

##### (4) 若者の高岡に対する誇りと愛着の醸成

教育環境の充実の視点からF先生の作品や作品に対する思い、まんがの原点などに触れる機会をつくることで、子どもの創造力や好奇心の向上を図り、将来的なクリエイター育成の土壌とする。

以上4つの方針で事業を推進することにより、転出抑制とUターンの推進、子育てしやすいまちづくりを実現させ、「若者の定住の促進」「若者が安心して働き、子供を産み育てられる地域社会」につなげる。

#### 【数値目標】

事業	若者が住みたくなるまちの魅力向上プロジェクト	年月
KPI	藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー入館者数	
申請時	38,606人	2017.3
初年度	38,700人	2018.3

2年目	38,800人	2019.3
3年目	38,900人	2020.3
4年目	39,000人	2021.3
5年目	39,100人	2022.3
6年目	39,200人	2023.3
7年目	39,300人	2024.3
8年目	39,400人	2025.3

事業	若者が住みたくなるまちの魅力向上プロジェクト	年月
KPI	高岡市社会動態推移	
申請時	▲81人	2017.3
初年度	▲30人	2018.3
2年目	20人	2019.3
3年目	70人	2020.3
4年目	0人	2021.3
5年目	0人	2022.3
6年目	0人	2023.3
7年目	0人	2024.3
8年目	0人	2025.3

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2(3)に記載

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例  
(内閣府):【A2007】

(1) 事業名: 若者が住みたくなるまちの魅力向上プロジェクト

(2) 事業区分: 移住・定住促進

(3) 事業の目的・内容

(目的)

4-4で示した方向性に則り、以下の個別事業を実施する。

藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーでのイベントをはじめ、作品中のキャラクターをラッピングした電停やモニュメント等の設置など、市内複数箇所で

事業を行い、各事業を連携する仕組みを構築することで、子育て世代の外出促進やまちの賑わい、拠点性と回遊性を高め、移住等による若い世代を呼び込むことを目的とする。

また、F先生の作品を通じて創造性や感性を高めることにより、ユニークな人材育成や個性あるまちづくりの拠点とする。さらに子どもたちの創造力や好奇心の向上を図り、将来的なクリエイター育成の土壌とする。

さらに作品は「友情・成長・ロマン」を感じさせることから、安心・優しさのあるまちなか景観を創造し、子どもや子ども連れの家族の外出促進にもつなげる。

### (事業の内容)

#### 藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー企画展示事業

子どもから大人まで楽しめるような幅広いテーマを毎年設定し、まんが原画を中心とした展示をする。また原画以外にもF先生ゆかりの品なども展示する。

藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーの入館者に、F先生の足跡をたどりながら、たくさんの原画を通してF先生のまんがの原点に触れ、作品の楽しさ、面白さの数々に触れていただく。企画展示では、毎年高岡に因んだテーマを設定し作品を入れ替えることにより、何度来ても楽しめるギャラリーとする。

→各年度の事業の内容（2019年度まで）

初年度）12月から3月にかけて、藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー企画展を開催する。

2年目）12月から3月にかけて、前年度とは異なるテーマで同企画展を開催する。

3年目）12月から3月にかけて、前年度までとは異なるテーマで同企画展を開催する。

#### 高岡おとぎの森公園等活性化事業

おとぎの森公園は、21世紀を担う子どもたちがたくましく健やかに成長していくための活動の場として整備された。花と緑、環境を核に自然の大切さを理解し、それらを身近に感じられる場として、子どもから大人まで楽しめる総合公園である。

この公園には、「ドラえもんの空き地」や「ドラえもんの日時計」などもあり、家族連れやF先生のファンがよく訪れる場所でもあることから、公園内にあるおとぎの森館のマリオネットシアターを活用し、ふるさとギャラリーなどの紹介映像を流し、施設をPRする。

また、F先生の作品は「成長・友情・ロマン」などが感じられる明るい印象を与えることから、おとぎの森公園を含む市内の公園など市民が日常的に訪れ

る場において、モニュメントの設置等により子どもから大人まで楽しく過ごせる場を醸成することで人の流れの活性化を図る。

→各年度の事業の内容（2019年度まで）

初年度）おとぎの森館内の施設の設置工事及びドラえもん空き地等整備

2年目）おとぎの森館内の施設の設置工事

3年目）おとぎの森館内の施設の設置工事

#### **藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーPR事業**

本市には路面電車「万葉線」が運行している。この電車は、高岡駅前から市街地を通るため、学生から高齢者まで幅広い年代の方が市内中心部へ向かう足として利用されている。また、最近では、中心部で町屋暮らしをする学生や子育て世代が増えており、それら若い世代の利用が徐々に増えている。

このことから電停など市内各所に藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーの広報看板等を整備し、ギャラリーへの誘導及びPRを図る。

ギャラリーへの誘導及びPRとともに公共交通機関の利用促進を図る。

公共交通機関は学生の利用が多く、F先生の作品を目につくところに多く配することで身近な存在として感じ、ふるさととしての誇りと一体感、郷土愛の醸成を図る。

→各年度の事業の内容（2019年度まで）

初年度）藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー最寄り電停にふるさとギャラリーの広報看板を設置する。

2年目）藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー最寄り電停からふるさとギャラリーまでの道路に案内表示を設置する。

3年目）来場者への聞き取り等を実施し、最も効果的な場所へ看板等を設置する。

#### **（４）地方版総合戦略における位置づけ**

本市の「未来高岡」総合戦略では、基本目標のひとつに「多様なひとが住みたいと感じるまちをつくる」を掲げ各種施策に取り組んでいる。取組みの中の人口減少対策においては、若い世代の転出を抑制し、転入を促進することが大きな課題となっている。そこで、多様なひとの定住を促すため、住みよい環境、若い世代のライフスタイルにあった生活環境の整備に努めることとしている。

具体的施策としては住みよい魅力のPR、受け入れ環境の整備による移住の推進をすることとし、重要業績評価指標（KPI）として、本市が「住みよい」と感じる市民の割合を増加させることとしており、本事業は、その目標達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標《重要業績評価指数（KPI）》

事業	若者が住みたくなるまちの魅力向上プロジェクト	年月
KPI	藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー入館者数	
申請時	38,606人	2017.3
初年度	38,700人	2018.3
2年目	38,800人	2019.3
3年目	38,900人	2020.3
4年目	39,000人	2021.3
5年目	39,100人	2022.3
6年目	39,200人	2023.3
7年目	39,300人	2024.3
8年目	39,400人	2025.3

事業	若者が住みたくなるまちの魅力向上プロジェクト	年月
KPI	高岡市社会動態推移	
申請時	▲81人	2017.3
初年度	▲30人	2018.3
2年目	20人	2019.3
3年目	70人	2020.3
4年目	0人	2021.3
5年目	0人	2022.3
6年目	0人	2023.3
7年目	0人	2024.3
8年目	0人	2025.3

(6) 事業費 (2019年度まで)

(単位：千円)

若者が住みたくなるまちの魅力向上プロジェクト	年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	計
	事業費計		20,000	20,000	20,000
区分	委託料 (藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー企画展示事業)	13,600	14,500	14,500	42,600

	委託料 (高岡おとぎの森公園活性化事業)	5,000	4,600	4,600	14,200
	委託料 (藤子・F・不二雄ふるさとギャラリーPR事業)	1,400	900	900	3,200

**(7) 申請時点の寄附の見込み額** (単位：千円)

年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	計
法人名	まんが制作会社	まんが制作会社	まんが制作会社	
見込み金額	20,000	20,000	20,000	60,000

**(8) 事業の評価の方法 (PDCAサイクル)**

(評価の手法)

高岡市総合計画審議会のメンバーに産官学金労言の有識者を加えた外部会議をおき、KPIの進捗管理による効果検証を実施する。効果検証の結果は、事業の見直し及び総合戦略の改訂に反映する。

(評価の時期・内容)

事業実施翌年度の秋頃に外部有識者(高岡市総合計画審議会)による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに高岡市公式ホームページにて公表する。

**(9) 事業期間**

2017(平成29)年6月～2025(令和7)年3月

**(10) 寄附の金額の目安**

60,000千円(2020年度～2024年度累計)

**5-3 その他の事業**

該当なし



## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

高岡市総合計画審議会のメンバーに産官学金労言の有識者を加えた外部会議をおき、KPI の進捗管理による効果検証を実施する。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度、秋頃を目途に外部会議を開催し、効果検証を実施する。効果検証は、KPI の目標値と実績値の比較により行う。

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

原則、会議を公開するとともに、結果を高岡市の公式ホームページで公表する予定としている。